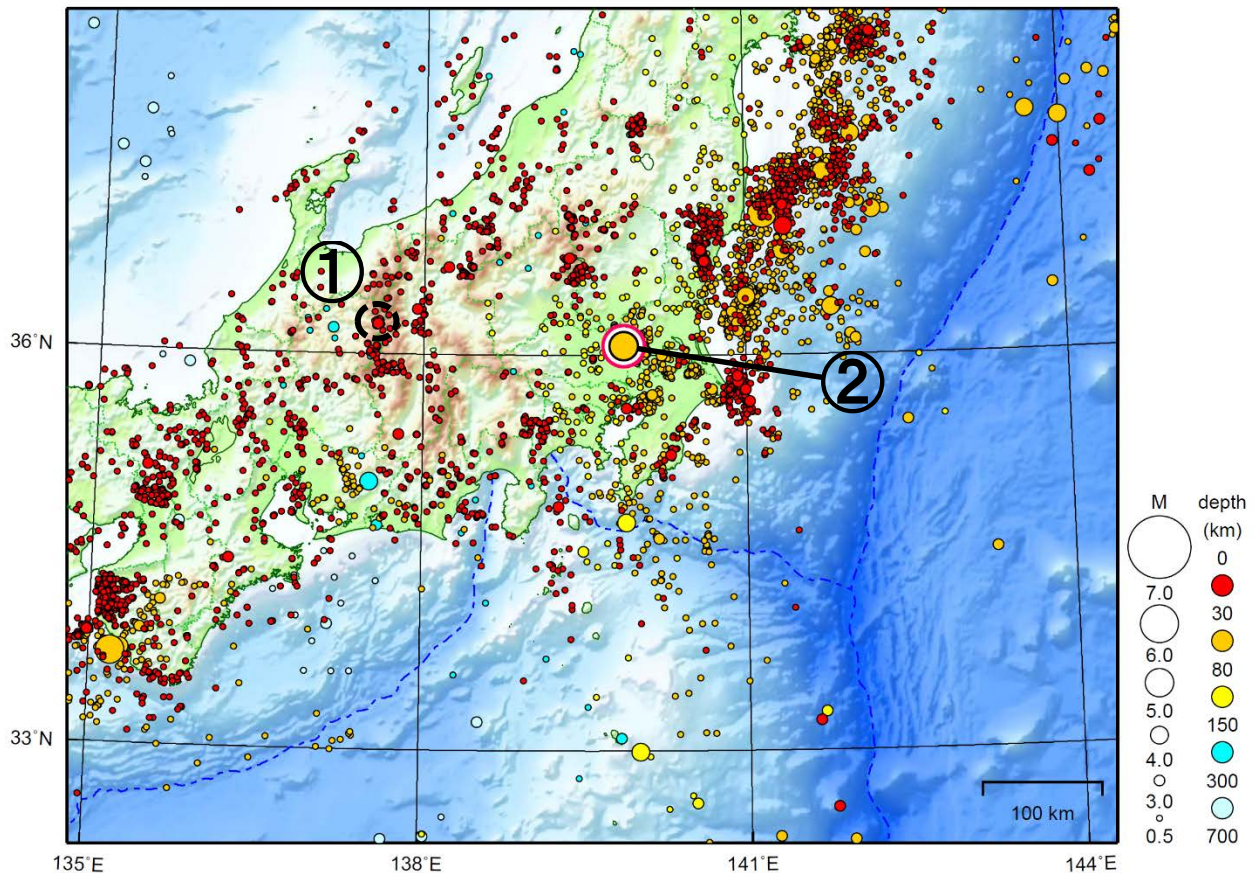


関東・中部地方

2018/11/01 00:00 ~ 2018/11/30 24:00

N=6821



地形データは日本海洋データセンターのJ-EGG500、米国地質調査所のGTOP030、及び米国国立地球物理データセンターのETOPO2v2を使用

- ① 11月23日から岐阜県飛騨地方（岐阜・長野県境付近）で地震活動が活発になった。11月23日から12月9日までに震度1以上を観測した地震は51回である（最大震度2：6回、最大震度1：45回）。
情報発表に用いた震央地名は〔長野県中部〕もしくは〔岐阜県飛騨地方〕である。
- ② 11月27日に茨城県南部でM5.0の地震（最大震度4）が発生した。

[上述の地震はM6.0以上または最大震度4以上、陸域でM4.5以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

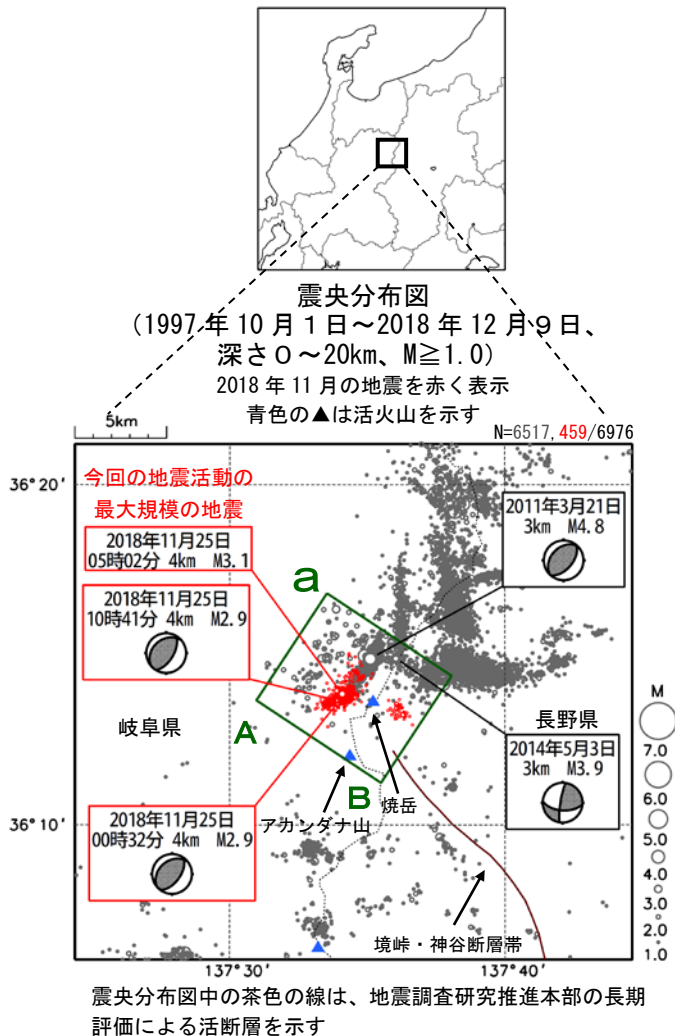
11月23日からの岐阜県飛騨地方（岐阜・長野県境付近）の地震活動

情報発表に用いた震央地名は「長野県中部」もしくは「岐阜県飛騨地方」である。

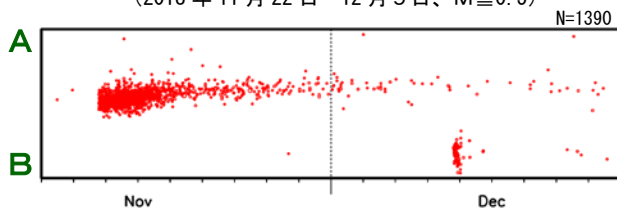
2018年11月23日から岐阜県飛騨地方（岐阜・長野県境付近）で地震活動が活発になり、12月9日までに震度1以上を観測する地震が51回発生した（最大震度2：6回、最大震度1：45回）。このうち最大規模の地震は、11月25日05時02分に深さ4kmで発生したM3.1の地震（最大震度2）である。今回の地震の活動域の付近には焼岳があり、11月23日から焼岳の西側で活動が始まり、12月4日からは焼岳の東側でも活動が活発になった。いずれの地震も地殻内で発生した。

1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域a）は、M3程度の地震が時々発生しており、東北地方太平洋沖地震発生後と2014年5月3日に、一時的に活動が活発になった。

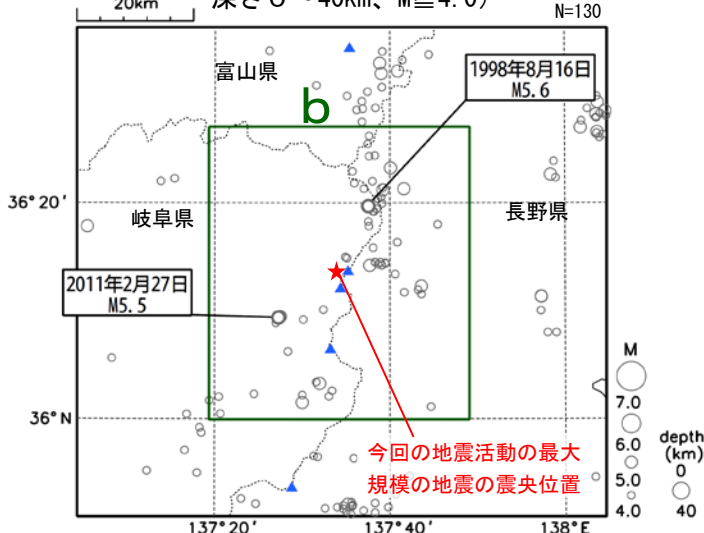
1923年以降の活動をみると、今回の地震の震央付近（領域b）では、M5程度の地震が時々発生しているものの、M6.0以上の地震は発生していない。



領域a内の時空間分布図（A－B投影）
(2018年11月22日～12月9日、M≥0.5)

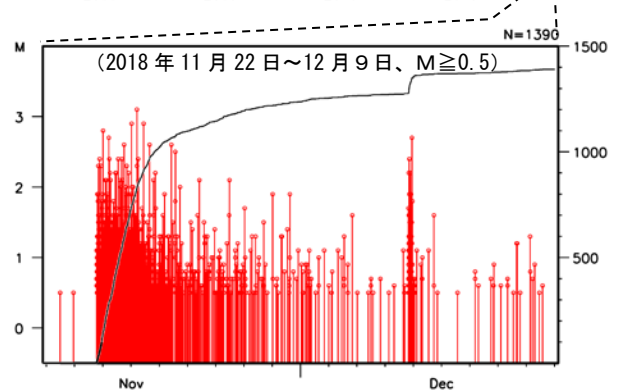
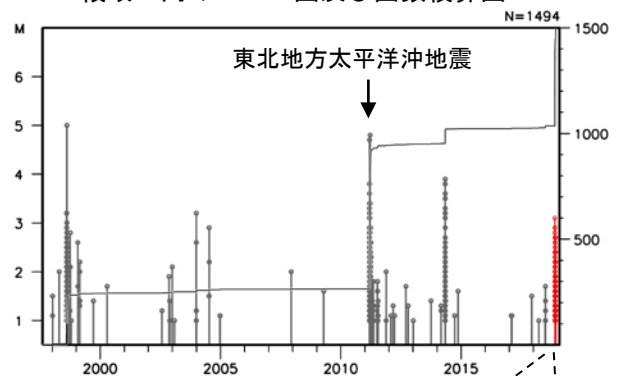


震央分布図
(1923年1月1日～2018年12月9日、深さ0～40km、M≥4.0)

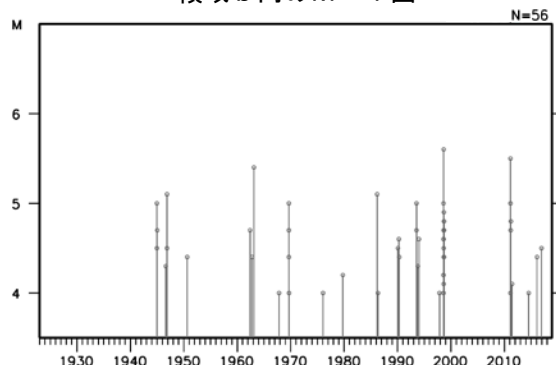


※12月9日の震源は精査前の震源です。

領域a内のM－T図及び回数積算図



領域b内のM－T図

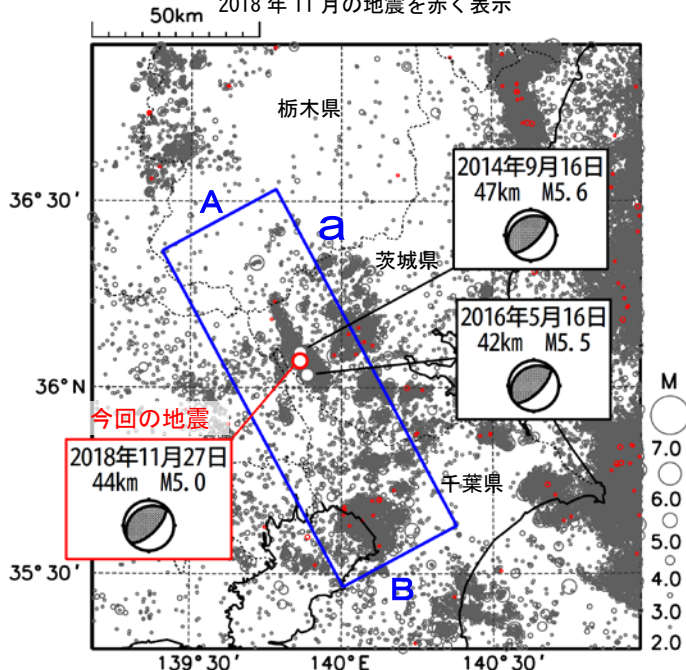


11月27日 茨城県南部の地震

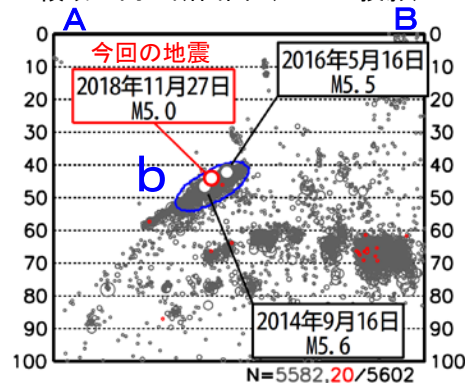
震央分布図

(1997年10月1日～2018年11月30日、
深さ0～100km、 $M \geq 2.0$)

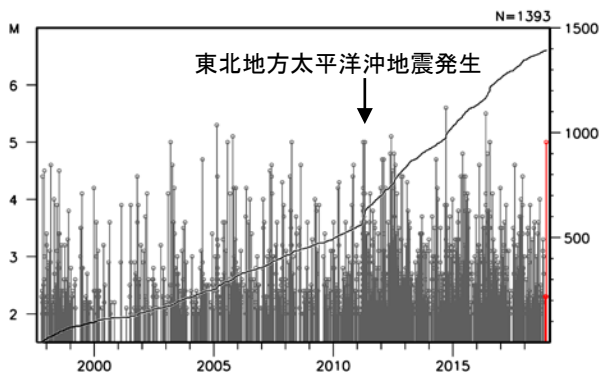
2018年11月の地震を赤く表示



領域a内の断面図（A-B投影）



領域b内のM-T図及び回数積算図



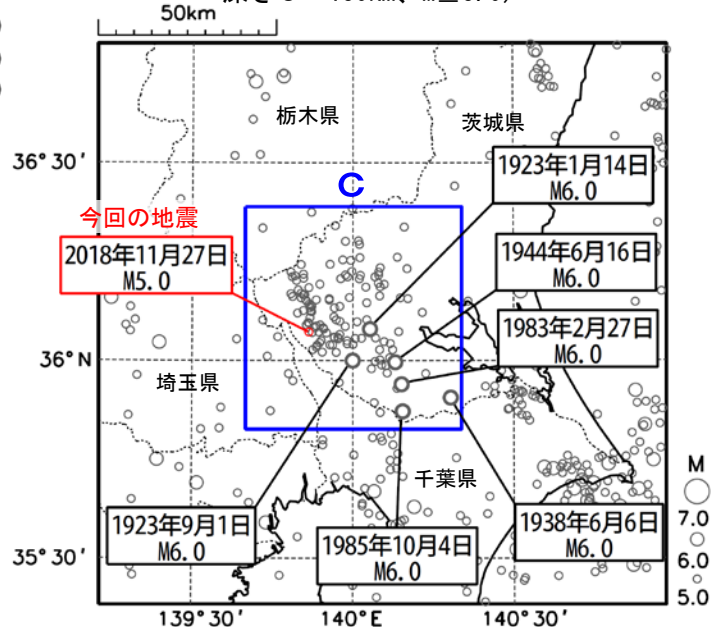
2018年11月27日08時33分に茨城県南部の深さ44kmで $M 5.0$ の地震（最大震度4）が発生した。この地震は、発震機構が北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した。

1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域b）は、活動が活発な領域で、 $M 5$ 程度の地震がしばしば発生しており、東北地方太平洋沖地震の発生以降、活動がより活発になった。最近では2016年5月16日に $M 5.5$ の地震（最大震度5弱）が発生し、茨城県で負傷者1人の被害が生じた（総務省消防庁による）。

1923年以降の活動をみると、今回の地震の震央付近（領域c）では、 $M 6$ 程度の地震が時々発生している。

震央分布図

(1923年1月1日～2018年11月30日、
深さ0～150km、 $M \geq 5.0$)



領域c内のM-T図

